

# 日本高麗浪漫学会設立10周年記念

10周年を記念し、7月に前期〈文献史学〉、12月に後期〈考古学〉と分けて、歴史シンポジウムを開催

## 第10回 高麗郡建郡歴史シンポジウム〈後期〉

# 高麗郡建郡の実態

## ～高麗郡成立の背景を考える～

講師：日本高麗浪漫学会研究員

加藤恭朗

飯能市教育委員会

富元久美子

この企画は、長年、古代高麗郡の歴史的研究を行っている日本高麗浪漫学会の役員が中心となって、講師・コーディネーターを務め、今までの10年間の研究成果をまとめたうえで、さらに深堀り・論議する特別なシンポジウムです。ぜひご参加ください。

なお、高麗1300（日本高麗浪漫学会）への入会申し込み（個人年会費3000円）はいつでも受け付けています。



2023年 12月17日 日

会場 13:00～16:45  
日高市総合福祉センター「高麗の郷」1F研修室

### Program

- 12:30 受付開始
- 13:00 開会あいさつ
- 13:15 趣旨説明 須田 勉（日本高麗浪漫学会会長）
- 13:30 講演Ⅰ「高麗郡建郡前の入間郡と周辺地域の動向」  
講師 加藤恭朗（日本高麗浪漫学会研究員）
- 14:20 休憩
- 14:35 講演Ⅱ「高麗郡建郡後の入間地域  
—高麗郡建郡は、この地域に何をもたらしたか—」  
講師 富元久美子（飯能市教育委員会）
- 15:25 休憩
- 15:40 パネルディスカッション  
「高麗郡建郡の実態～高麗郡成立の背景を考える～」  
コーディネーター 須田 勉  
講師 加藤恭朗 富元久美子
- 16:40 まとめ 閉会

- 定員 100名（申し込み先着順）
- 参加費（資料代等） 高麗1300会員 500円 一般（会員外）1,000円
- 申込み 11月6日（月）10:00より高麗1300へ次の①～④のいずれかで。先着順に受付（お名前・連絡先・住所等）。
- ①ホームページ <http://komagun.jp> トピックス記事「申込みフォーム」から
  - ②E-mail [info@komagun.jp](mailto:info@komagun.jp)
  - ③電話 042-978-7432（不在の場合あり）
  - ④FAX 042-978-7452

写真提供 日高市教育委員会

新型コロナウイルス感染症予防にご協力ください。

主催：高麗1300 / 日本高麗浪漫学会 後援：日高市教育委員会  
企画：日本高麗浪漫学会企画運営委員会

## 講師からメッセージ ～シンポジウム〈後期〉のテーマについて～

入間地域の各市町村に埋蔵文化財調査の体制が整い、本格的に発掘調査が行われるようになってから、はや 50 年近くになります。その間に蓄積された発掘調査の成果により、この地域の古代の様相が少しずつ明らかになってきました。今回は、高麗郡建郡以前と以後の地域の様相を比較することで、なぜこの地に高麗郡が建郡されたのか、高麗郡建郡は地域に何をもたらしたのかなどを、考古学的手法によって明らかにしていきたいと思います。

講師 **加藤恭朗** かとう やすお  
日本高麗浪漫学会 研究員

1956年生まれ。元坂戸市歴史民俗資料館館長。長く坂戸市の文化財行政に携わり、勝呂廃寺や若葉台遺跡の発掘調査に携わってきた。

### 講演テーマ： 高麗郡建郡前の入間郡と周辺地域の動向

高麗郡建郡は霊亀2年(716)を起点とした歴史的事象ではなく、すでに7世紀後半の段階には高麗福信の出身母体である肖奈氏が入間郡に居住し、勝呂廃寺の創建、東山道武蔵路の整備などを主導してきた可能性を指摘してきました。また、若葉台遺跡からは渡来人との関係を示唆する墨書土器などが出土し、高麗郡開発に深く関与した集落であると考えてきました。

今回は弥生時代中期まで遡り、入間郡と周辺地域の動向を探っていききたいと思います。各時代において地域の発展を牽引してきた象徴的な集落や古墳とこれに伴う遺物など系統的に概観しながら、入間郡と周辺地域の発展過程における特色について言及していきます。入間地域において、渡来人の関係性を直接結び付ける資料は今のところありませんが、各時代において渡来人の関与があったことは十分に予想されます。

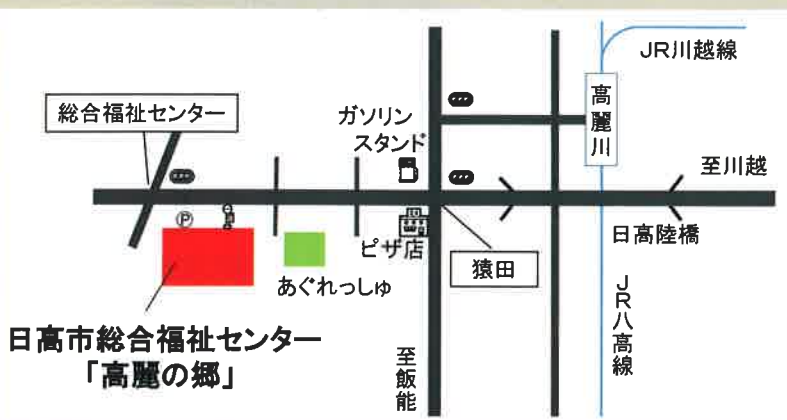
講師 **富元久美子** とみもと くみこ  
飯能市教育委員会文化財専門調査員

1958年生まれ。長年飯能市教育委員会の文化財専門調査員として、張摩久保遺跡・飯能焼原窯跡などの発掘調査に関わる。研究テーマは奈良・平安時代の集落・東金子窯跡の須恵器生産・古代高麗郡など。

### 講演テーマ： 高麗郡建郡後の入間地域 ～高麗郡建郡は、この地域に何をもたらしたか～

平成元年度、飯能市堂ノ根遺跡で発見された1軒の住居跡から、常陸国(現茨城県)で生産された土器がセットで出土しました。この発掘調査により、「関東周辺七か国からの渡来人の移住と高麗郡建郡」を記す『続日本紀』の一文がにわかに注目を集めることとなりました。その後、入間地域の各遺跡(集落)の住居跡数の時期的変化や須恵器の流通状態などから、高麗郡の郡域を知ろうとする試みや、具体的に高麗郡がどのように開発されていったのかについて、研究が進んでいきました。その途中で、高麗郡建郡は、入間郡や武蔵国府との関係を抜きにしては語れないのではないかという視点も生まれてきました。

今回は新たな発掘調査の成果も踏まえ、高麗郡建郡を契機にして、高麗郡を含む入間地域がどのように変わっていったのか、これまでの研究の過程を振り返ってみたいと思います。



#### 【会場】

#### 日高市総合福祉センター「高麗の郷」

埼玉県日高市榎木(にれぎ) 201

☎042-985-9988

- ・JR八高線 川越線 高麗川駅より徒歩約15分
- ・高麗川駅から国際興業バス「飯能駅行」に乗り、「総合福祉センター前」下車
- ・お車の場合、無料駐車場あり  
※臨時駐車場をご利用いただく場合があります

【お問い合わせ】 高麗1300 (日本高麗浪漫学会) 事務局

☎042-978-7432 〒350-1243 埼玉県日高市新堀 855-3

E-mail info@komagun.jp ホームページ <http://komagun.jp>